

ケーブルプラスSTB 重要確認事項

- ケーブルプラスSTBで外部接続ハードディスク（以下、外部接続HDD）を利用して、録画・録音された内容を消去した場合、機器や放送の不具合等、いかなる場合であっても一切の補償をいたしません。
- 外部接続HDDをケーブルプラスSTBに接続して録画用として登録すると、ケーブルプラスSTBの外部接続HDDとしてフォーマット（初期化）しますので、それまで外部接続HDDに保存していたデータは全て消去されます。
- ご解約の際にはKCN京都およびKCN京都が指定する業者より、ケーブルプラスSTBを撤去・回収いたします。
- 故障の際にはケーブルプラスSTBを交換する場合がございます。
- ケーブルプラスSTBを回収、交換した場合は、外部接続HDDに記憶された内容は消去される場合があります。
- 「デジタルコピー不可」の番組は録画できません。
- 「1回だけデジタルコピー可能」の番組を外部接続HDDに録画した場合、DLNA対応機器へのムーブは可能ですが、ダビングすることはできません。（録画内容を恒久的に保存したい場合は、記録メディア等に保存することをお奨めします）
- 「ダビング10可能」な番組を外部接続HDDに録画した場合、DLNA対応機器にはダビング9回ムーブ1回が可能です。（LAN接続可能な機器についてはお問合せください）
- 外部接続との接続・設定（LAN、外部接続HDD等）は、お客様ご自身にてお願いいたします。当社にて設定をご希望される場合は、有料となります。
- LAN録画を実行する場合は、有線LANでのネットワーク接続をご使用ください。無線LANまたはPLCでのネットワーク接続では、LAN録画が正常に実行されない場合があります。また、無線LANまたはPLCでのネットワーク接続では、ケーブルプラスSTBとDLNA対応機器を直接有線LANで接続すると、インターネットに接続できません。ルータあるいは中継器経由でDLNA対応機器と有線LANで接続してください。
- ケーブルプラスSTBの分解・改造は絶対に行わないでください。分解・改造が判明した場合は機器損害金をお支払いいただきます。また、お客様の故意によりケーブルプラスSTBが故障した場合も、機器損害金をお支払いいただきます。
- ケーブルプラスSTBをご解約される場合は、機器撤去工事費が発生し、ケーブルプラスSTBと付属品をご返却いただきます。ご返却がない場合は、機器損害金をお支払いいただきます。

■無線LANについて

- ケーブルプラスSTBは無線LAN（Wi-Fi）クライアント内蔵です。
- ご契約内容により、接続方法や設定内容が固定されていることがあります。
- ケーブルプラスSTBを無線LANネットワークに接続（本機の設定：「クライアント」）にする場合、対応した無線LAN親機となるアクセスポイント（無線ブロードバンドルータ）が必要です。
- アクセスポイントは、WPS対応であることを確認してください。（WPSに対応していない場合は、設定の際にアクセスポイントの暗号キーが必要となります）
- 無線LAN接続に関しては、電波状況により接続できない場合もあります。その場合は有線で接続してください。
- ケーブルプラスSTBと他の無線機器との接続環境によっては、通信速度が遅くなる場合があります。
- アクセスポイントの無線方式を切り替えた場合は、無線LANで接続できていた機器（パソコン等）が接続できなくなることがあります。
- 通信内容の傍受、不正利用、なりすまし等を防止するために、適切なセキュリティ設定（暗号化設定）を行ってください。ケーブルプラスSTBには、標準でセキュリティ（ウィルスバスター）が設定されていますので、設定を無効にせず、そのままご利用いただくことをお奨めします。
- 電波障害が発生する場合がありますので、電波を使う機器から離してご利用ください。
（例：電子レンジ等）
- DLNAによる再生は、有線での接続をお奨めします。無線で接続する場合は、ケーブルプラスRemoteのご利用をお奨めします。
- ネットワークの接続構成を変更すると、重要な最新ファームウェアへの更新ができなくなったり、設定変更が行えなくなったりする可能性があるため、変更は行わないでください。お客様で接続構成等、変更を行った場合は動作保障できません。
- 詳しくは取扱説明書をご覧ください。